

7-3. 带状疱疹

I. 病態と診断

- 1) 水痘に罹患した後，三叉神経節や脊髄後根神経節に潜伏感染していた水痘・带状疱疹ウイルスが，さまざまな因子で再活性化して発症する皮膚疾患である。
- 2) 初期に片側性に神経痛様の疼痛が認められ，その後に浮腫性の紅斑や小水疱が神経支配領域に一致して出現してくる．水疱は破れてびらん・潰瘍となり，痂皮を付して約3週間で治癒する。

II. 伝播経路と感染対策

- 1) 気道粘膜での増殖がないので，基本的には接触感染で伝播すると考えられている。
- 2) そのため感染力は弱いですが，皆無でないので感受性者，免疫不全症患者の多い病棟では隔離すべきである。
- 3) 免疫不全患者が带状疱疹に罹患した時，抗ウイルス剤で軽快し，播種性带状疱疹に進展する危険がなくなるまでは，隔離すべきである。
- 4) 免疫不全患者にみられる播種性带状疱疹に対しては水痘に準じた対応が必要である。

感染制御部 石黒 信久
小山田 玲子
(H25.5作成・H28.5内容確認)